



おでんに隠された秘密とは：
そこには日常をより豊かにする仕掛けがありました





“抱え上げない介護”をはじめ、新しい試みを次々と取り入れている介護施設「白熊園」(城南区別府)。20～30代の職員が活躍する職場では、ご利用者の方の日々の暮らしをより豊かにするイベントが毎月実施されています。その内容とは…。※以下敬称略

——白熊園では毎月、ユニークなイベントを開催されているそうですね。なぜイベントを実施しているのでしょうか

釜堀 日常生活では食事が決められていて、風景も同じです。こういうイベントがあることで、日常をもっと豊かに、自分のしたいことができるようサポートするのは、自立支援に繋がると考えて、実施しています。

——2月の「おでん」イベントで心がけたことはありますか

水戸 季節や雰囲気づくりを大事に、作業衣を着て音楽を流しながら屋台を引きました。

釜堀 具材はご利用者の方が昔から味わっていたものを聞いて用意し、食べやすいようにカットして提供するなど、それぞれ好きなものを選ぶことを大事にしました。

水戸 自分で選んでいただいて、自分で食べたいものを食べられる…そういった選択の一つひとつが、ご利用者の方の尊厳を大切にすることも一番大事だと思っています。

——イベントはどのように企画しているんですか？

吉竹 ご利用者の方のニーズを聞き取り、皆で話し合います。施設全体で2カ月かけて大きなイベントを開催することも

あれば、施設内の委員会やグループごとに実施することもあります。夏はみんなで花火をしたんです。

釜堀 外出支援のイベントもあって、猫が好きな方を猫カフェにお連れしたり、お花が好きな方と一緒にお花屋さんに行ったりもしました。

——実際にイベントを実施されてどうでしょうか、やりがいはありますか？

吉竹 参加された皆さんが笑顔になることが嬉しいです。イベントの時はたくさんお話して下さるなど、日ごろとは違った変化がみられることもやりがいに繋がります。

——皆さんにとって、介護の魅力とは

吉竹 普段の介護やイベントを通して、ご利用者の方から直接「ありがとう」と感謝の気持ちをいただけるのが一番の魅力だと思います。

水戸 ご利用者の方それぞれの生活や趣味嗜好があるので、コミュニケーションをとりながらアプローチの方法を見つけて、信頼関係を築けるのが楽しいしやりがいを感じます。



水戸さん(左)
介護福祉士

親族が福祉関係の仕事をしてきたことから興味を持つように。入職1年目なので初心を忘れないように、信頼される介護福祉士を目指している。

釜堀さん(中)
介護福祉士

曾祖母に助けてもらった思い出から、他の方に恩返しがしたくてこの仕事に。相手の立場に立って考え、一人ひとりを尊重したケアを心がけている。

吉竹さん(右)
介護福祉士

人の人生に真正面から関わりたくてこの仕事に。ご利用者の方を主体として、「やりたいこと」を引き出し、希望を叶える介護を大事にしている。

取材先／社会福祉法人 白熊会…特別養護老人ホームに、ショートステイサービス・デイサービスセンターを併設する「白熊園」のほか、「看護小規模多機能しらくま野方」「サービス付き高齢者向け住宅ブランヴィル野方」を運営する。

福岡市では介護の魅力を発信しています。

介護の魅力を発信しています！是非ご覧ください。

